

第9回日中韓大学院生フォーラム報告書

Report of the 9th Japan-China-Korea Graduate Student Forum



- ◆ 開催日程 ; 2016年9月20日(火)-23日(金)
DATE; Tuesday, Sept. 20 – Friday, Sept. 23
- ◆ 開催場所 ; 忠南大学校 (韓国)
VENUE; Chungnam National University, Korea



筑波大学生命環境系
Faculty of Life and
Environmental Sciences
University of Tsukuba



筑波大学
University of Tsukuba

第9回日中韓大学院生フォーラム報告書

Report of the 9th Japan-China-Korea Graduate Student Forum

◆ 開催日程 ; 2016年9月20日(火)-23日(金)

DATE; Tuesday, Sept. 20 – Friday, Sept. 23

◆ 開催場所 ; 忠南大学校

VENUE; Chungnam National University, Korea

目 次

CONTENTS

1. はじめに / Introduction	・・・ 1
2. フォーラムの略歴 / History of the forum	・・・ 2
3. 日中韓大学院生フォーラム報告 / Report of JCK Graduate Student Forum	
1) 学生リーダーからの報告 / Report by Student Leader	・・・ 4
2) 実行委員会からの報告 / Report by Representative of Executive Committee	・・・ 6
3) 参加学生からの報告 / Report by Participated Students	・・・ 8
4) サポートチームからの報告 / Report by Support Team	・・・ 22
4. フォーラム日程表 / Schedule of the 9 th JCK Forum	・・・ 25
5. フォーラム参加校と参加者数 / List of Participated Universities and the Number of Participants	・・・ 26
6. 受賞者一覧 / List of Prize Winners	・・・ 27
7. 筑波大学学生参加者名簿 / List of Participants from University of Tsukuba	・・・ 28
8. 実行委員名簿 / List of Organizing Committee Members	・・・ 30
9. 謝辞 / Acknowledgement	・・・ 31

1. はじめに / Introduction

第9回日中韓大学院フォーラムが、2016年9月20日から23日まで韓国の大田にある忠南大学校で開かれました。日本からは筑波大学から27名、中国からは北京大学、清華大学、中国地質大学、中国農業大学、中国科学院大学、中国科学院地理科学与資源研究所、瀋陽農業大学の7大学から68名、韓国からは忠南大学校から26名の計121名が参加しました。21日、22日の2日間、農学セッション(2)、生物科学セッション(2)、環境科学セッション(4)、地球科学セッション(2)の合計10のセッションで、121題の研究報告が行われました。初日は遠慮気味でしたが、二日目になると顔なじみになったせいか、質疑応答も活発に行われるようになりました。博士課程や修士課程の学生に交じり、筑波大学の学類生の発表が4題あり、彼らが頑張っているのが印象的でした。22日の閉会式では、10のセッションで最優秀の1等賞と2等賞の学生、20名が選ばれ、筑波大学からは1等賞が5名、2等賞が3名選ばれました。筑波大生の研究発表は堂々としており、明解でわかりやすく、抜きんでておりました。

交流は2日間だけでしたが、最終日の朝には別れを惜しむ姿が多く見られました。若者たちの友達づくりの能力は素晴らしいものです。学生たちの相互理解と交流が、日中韓の明るい未来を作るに違いありません。今年、中国地質大学で第10回日中韓大学院フォーラムが開催されます。日中韓フォーラムは筑波大学が中心になって発足しました。中国地質大学の教員から、来年も筑波大学から多くの学生が参加してほしいとの要望がありました。筑波大の学生の自主的な参加を期待しております。これからも、日中韓大学院フォーラムが末永く続くように、皆様の協力をお願いいたします。

第9回日中韓大学院生フォーラム代表
生命環境科学研究科長 沼田 治



忠南大学校 ○○先生と沼田研究科長

2. フォーラムの略歴

- 2007年3月 北京大学、清華大学、中国地質大学、中国農業大学、北京師範大学、中国科学院大学院(GUCAS)、Institute of Geographic Sciences and Natural Resources Research (CAS)の6大学1研究所と筑波大学の間で、学生交流を含む大学間協定が交わされた。この協定が契機となって、その後の日中の大学間で交流が開始した。
- 6月 GUCASの副学長の筑波大学訪問時に、大学院生のフォーラムに関する構想が提案される。
- 8月 先の構想をもとに本格的なフォーラムの企画が開始される。当初のねらいは日中間の相互理解と学問的な情報共有にあった。規模が拡大した現在でも Academic な交流としての側面と、学生同士の交流の場としての側面として、この精神は受け継がれている。ここで二国間の持ち回り開催などの基本的枠組みが決定された。
- 2008年3月 プレフォーラムが北京市において開催される。
- 10月 第1回フォーラムが筑波大学にて開催される。学生主体のフォーラムという基本的な性格は、第1回から綿々と続いている伝統である。
- 2009年 第2回フォーラム開催（於 中国地質大学）
- 2010年 第3回フォーラム開催（於 筑波大学）。
- 2011年 第4回フォーラム開催（於 中国地質大学）。
- 2012年 第5回フォーラム開催（於 筑波大学）。
大変喜ばしいことに、このフォーラムから韓国忠南大学校が参加することになった。これに伴いフォーラム名も日中韓大学院生フォーラムとなった。
- 2013年 第6回フォーラム開催（於 忠南大学校）。
- 2014年 第7回フォーラム開催（於 中国地質大学）。
- 2015年 第8回フォーラム開催（於 筑波大学）。
- 2016年 第9回フォーラム開催（於 忠南大学校）。

2. History of the forum

- March 2007 University of Tsukuba (UT) and six Chinese universities and one institute (i.e. Peking University, Tsinghua University, China University of Geosciences, China Agricultural University, Beijing Normal University, Graduate University of Chinese Academy of Sciences (GUCAS)). Institute of Geographic Sciences and Natural Resources Research (CAS) set an agreement including student exchange.
- June 2007 Vice-president of GUCAS visited UT. At that time outline of the forum was fixed.
- August 2007 President of CUGB visited UT to discuss actual plan of the forum. Initial aim was mutual understanding and exchange academic information among universities. It was decided here to have the first forum in UT, and second one in CUGB.
- March 2008 Pre-forum was held in Beijing.
- October 2008 The first forum was held in UT.
- 2009 2nd forum at CUGB
- 2010 3rd forum at UT
- 2011 4th forum at CUGB
- 2012 5th forum at UT
Since this year's forum, Chungnam National University(CNU) has joined and forum was re-named as "*China-Japan-Korea*" Graduate Student Forum. It was our great pleasure to have new friend in this forum.
- 2013 6th forum at CNU
- 2014 7th forum at CUGB
- 2015 8th forum at UT
- 2016 9th forum at CNU

3. 日中韓大学院生フォーラム報告

/ Report of JCK Graduate Student Forum

1) 学生リーダーからの報告 / Report by Student Leader

学生リーダー：浅野裕樹、市川紗矢香、岡島智美、石崎光理、竹原繭子、松本楓太

本フォーラムの学生リーダーは、大学院生から3名、学群生（4年生）から3名の計6名で組織された。大学院生3名は、昨年第8回フォーラムのリーダーを経験している。学群生3名は各学類の学類長より推薦いただき、7月14日の第2回学生委員・事務職員の打ち合わせから業務に携わった。

ここでは、学生リーダーの仕事内容の一部とフォーラムの改善事項について述べる。

○参加者募集及び参加者への連絡

参加者募集のため、6月下旬にポスターを生命環境系の各研究棟に掲示した。今回は募集期間が短かったため、国内他大学からは参加者は募らなかった。応募者のアブストラクトと英語能力をもとに先生方に選考を行っていただき、参加者を決定した。参加者には Google グループのメーリングリストを用いて連絡を行った。

○練習会の開催

英語での口頭発表能力の向上、スライドのデザインや発表内容の構成などを含めたプレゼンテーション能力の向上を目的として、例年事前練習会を行っている。練習会への参加回数は、単位取得を希望する学生は2回、希望しない学生は1回以上を義務付けた。講師陣は本フォーラムの実行委員の先生方(沼田先生、荒川先生、楊先生、康先生、Wood 先生、Louis 先生、田島先生、Taylor 先生、Tofael 先生、浅野先生、Marcos 先生、上野先生、久田先生)にお願いし、英語での発表の仕方やスライドの作り方等を指導して頂いた。その結果、筑波大生は練習会の時に比べて、本番では質の高い発表ができていたと思われる。

○フォーラムの改善事項

フォーラム中のトラブルとしては、口頭発表に関しては、自身の専門と異なるセッションに振り分けされたこと、タイムテーブルの繰り上げがあったこと、評価方法が明確でなかったこと等が挙げられる。また生活面では、ハラル食が適切でなかった、会期中の筑波大学としての連絡が取りにくかったこと等がある。どちらも、事前に希望を正確に伝えること、わからないことに関しては問い合わせることが必要であったと思われる。



学生リーダーおよび忠南大学校学生リーダー



参加学生集合写真（忠南大学校農業生命科学大学前）

2) 実行委員会からの報告

/ Report by Representative of Executive Committee

平成28年9月20日から23日の4日間、韓国の忠南大学校の主催で第9回日中韓大学院生フォーラム(The 9th Korea-China-Japan Graduate Student Forum)が、大田広域市所在のHotel Intercitiで開催された。“Agriculture, Food, Environmental and Life Sciences in Asia”の題目で、日本の筑波大学から27名、中国から北京大学、清華大学、中国地質大学、中国農業大学、中国科学院大学、中国科学院地理科学・資源研究所、瀋陽農業大学の6大学1研究所から67名、韓国の忠南大学校から27名、計121名が3ヶ国の9機関から参加した。さらに、筑波大学では学生をサポートするため、6名の教職員が派遣され、計33名がフォーラムに参加した。

日中韓大学院生フォーラムは日本の筑波大学、中国の中国地質大学、韓国の忠南大学校が中核大学として持ち回りで2008年から毎年行なわれている(韓国は2012年から参加)。このフォーラムは、3カ国の大学院生による生物科学・生物資源・地球科学などの分野を超えた研究結果発表の場としてだけではなく、学生の英語コミュニケーション能力の向上と各国の相互理解を深める場としての役割も持つ行事である。また、学生がフォーラムの企画・運営に主体的に関わることで、大きな国際イベントの企画や運営能力を涵養する場としても活用されている。

第9回は21日、22日の2日間で、農学から2セッションで20題目、生物科学から2セッションで21題目、環境科学から4セッションで52題目、地球科学から2セッションで28題目の、計10セッションで121題目(学類生発表の5題目を含む)の口頭発表が行なわれた。学生同士で質疑応答が活発に行なわれ、熱い議論が交わされた2日間だったと思う。22日の閉会式では、10セッションの121題目の研究発表の中から、最優秀の1st Prize 10名、2nd Prize 10名の合計20名が選ばれた。本学からは1st Prize 5名、2nd Prize 3名の計8名が受賞し、参加大学で最も多い受賞者を輩出した。学生が2回の発表練習会を通じて、研究内容に関わる意見交換やプレゼンの効果を高めることができたことが、この成果に繋がったと思われる。

来年の2017年には、中国地質大学で第10回日中韓大学院生フォーラムが開催されることが決定された。今回参加した多くの学生からは、このフォーラムは大変ながらも楽しく、良い経験だったので、来年のフォーラムにもまた参加したいとの希望も多数出ている。

第9回日中韓大学院生フォーラム実行委員代表の沼田治：生命環境科学研究科長をはじめ、荒川洋二：生命環境学群長、実行委員の教職員及び大学院生・学類生代表の皆様のご尽力により、今回のフォーラムの当初準備から報告会まで無事に終了することができ、フォーラムでも良い実績をあげることが出来た。

第9回日中韓大学院生フォーラム実行委員
康 承源（生命環境系准教授）



日中韓教職員の集合写真



学生リーダーおよびサポートチームの打合せ

3) 参加学生からの報告 / Report by Participated Students

生命産業科学専攻 博士後期2年

Mishma Silvia Stanislaus

The 9th CKJ Forum was an exciting experience in my life at Tsukuba, Japan. The idea that we, the international students will not only be representing our own country but will also be representing Japan and our own University made us all the more anxious. When we reached Korea we were given a warm welcome. My presentation went well and was able to deliver the information to the crowd successfully (and I should definitely thank the teachers who helped practice for the presentations). After finishing my presentations I was more relaxed and went around listening to other presenters. It was very interesting to get to know the umpteen numbers of research fields that exist and it arouse in me the feeling that acquiring knowledge is endless and there are lot of things I am not aware of. This Forum therefore instilled the thought of widening my horizons and learning things outside my field as well. So, from the academic point of view this forum was definitely an intellectual undertaking and a very different experience to each one of us.

Apart from taking part in the Forum we were excited about being in a new country and it was the first time for most of us to go to Korea. So, we made some time for sightseeing and went to a few places. We were lucky because during the time we went, Chungnam National University had their cultural festival and so we could enjoy all the activities. It was a great place and we got to see quite a bit of Korean culture. We also ate a variety of Korean food which was certainly delicious and authentic. Yet again this venture showed us how different we are by culture but still the same by nature.

Finally, the finale was the awarding ceremony, and I am more than happy to have achieved the First prize for outstanding presentation award along with other students. The credit of my achievement definitely goes to my Advisor, Prof. Yang and the way she trains her students. The numerous numbers of presentations we give in our lab and the vigorous training really helped me give my best at the forum and the result was fruitful. I am also very glad that a lot of students from University of Tsukuba received awards that show the high level of training imparted to us that helped us achieve the same.

I am really grateful to the committee that selected us and gave us the opportunity to be a part of this forum and gain such a memorable experience. Also, would like to extend my heart filled appreciation to all the teachers and officials of University of Tsukuba who have supported us, trained us and been with us; and also not to forget the student leaders for their constant care and support.

生命産業科学専攻 博士後期 3年

Asma Ben Hmidene

During the JCK Graduate students' forum, there was the possibility to attend the presentations of students from different universities giving the chance to get an idea about various research topics. The forum was also an opportunity to practice oral presentation, especially if there was no previous chance to do it. The preparation and rehearsal sessions before the forum were helpful to organize the main points of the speech and get advices from different professors. And since the audience in the forum was mainly formed of graduate students with different scientific background, the comments and questions were quite divers and reflect different points of view.

国際地縁技術開発科学専攻 博士後期 2年

Yinchao Xu

First of all, I am honored to get the chance to participate this outstanding and impressive forum, and really appreciate for the support, guidance and effort done by the professors, staff and student leaders.

It was a very great and successful meeting with many students from Japan, China and Korea sharing their interesting research works covering wide fields. Presenting and discussing about research helps everyone practice presentation skills, get more inspiration, have more communication, and build relationship and network, which are all of great importance to be a good researcher. I personally was grateful for the questions and comments given by professor and students, which helped me consider deeper about my research. Besides, during the stay in Korea, I made many friends from these three countries, and shared a lot about the research life, and culture.

In conclusion, it was a great experience for me and I wish this forum will be better and better, benefiting more and more students.



国際地縁技術開発学専攻 博士後期1年

Alamgir Md Shah

It was a great opportunity in my study life to participate this Student Symposium. Firstly, I shows my sincere gratitude to the authority for select me as a participant for this program. I acknowledge to the University of Tsukuba for financially supporting me to attend this program.

This was my first time visit in South Korea. I never forget anything that I learned from this tour. This program was the great achievement in my study life. I learned not only research presentation techniques and study related matters but I also learned how to support and hospitality to others and how should friendly with colleagues and students, how to communicate with people and behave with others.

From this program, I have learned many new things about my presentation. I am grateful to all of my respected teachers who helped me to improve my slides. Before the presentation, I was very much worried. Now I am confident enough to present my research anywhere in front of scientific audience.

I also grateful to all officers related the forum who worked a lot for successfully arranged this program.

If there is any opportunity it should be include more students and field visit in this program because this program is very helpful for a student of his research as well as increase the communication skills and to know culture of the different countries.



国際地縁技術開発学専攻 博士後期 1年

Nazia Muhsin

I feel honour to introduce myself as a participant and award winner of 9th JCK Graduate Student forum, 2016. It's a great experience to participate such international forum where students from Japan, China and Korea share the same platform to present their research. This was the 2nd time I had participated the Forum and had received award. I would like to express my sincere gratitude to my advisor, Dr. Tofael Ahamed and the honourable committee members of the University of Tsukuba of JCK forum who helped us all during the training sessions. Their valuable suggestions helped us to improve our presentations and to become more confident. I would also take this opportunity to thank graduate student leaders of University of Tsukuba who worked very hard to organize the event. In addition, it was a great opportunity for me to visit South Korea first time. We were very pleased to receive the warm welcome and hospitality of the students of Chungnam National University. During the course I got friendly with the participants of JCK forum of 2016 and some of them become very good friend of mine.

持続環境学専攻 博士後期 1年

COBAR Leslie Jamie Cajipe

It was a good venue to introduce new research ideas in the fields of biology, agriculture and environment in the late undergraduate to graduate student level. It was also able to train students in order to enhance their skills on english speaking, public presentations and how to respond to questions.

Personally I was able to have an idea on the research topics of other colleagues like in neurosciences, bioenergy, medicine and farming and food security and technology. I was also glad that I was able to share my research with the other members who belong to the different fields and happy that they found it interesting. More importantly, I made good friends with other students of the Graduate School of Life and Environmental Sciences and also those from China and South Korea.

My suggestions for improvement is in the matter of giving awards for best presentations. In some of the sessions, the judges were not around to give scores to the presenter. Likewise, the students were not asking questions too much so it was not a good factor to rate students' performances. There were also some issues in secretariat like food restrictions that should have been handled well.

国際地縁技術開発学専攻 博士後期1年

Md. Monjurul Islam

Any type of conference is the place for dissimilating knowledge. The benefit of the conference for participants lay in increasing their sense of emotional literacy, improving their abilities for managing themselves better in their multiple roles necessary for leadership, understanding and working with resistance to change in themselves and others in different conference events and in their own institutions and networks.

JCK conference is the platform for the students to know the different ideas and research are conducting by different students in different places. Really I am very happy for participate in the 9th JCK conference in South Korea. By participating the conference my presentation is improved and I get some new ideas and methods to conduct my research more smoothly. I am also able to know the different cultures and a good friendship with other participants. Hope this relation will help me to build a good academic and research network in future. Another thing is that conference should be a sightseeing event, so the students join from abroad, can get some knowledge in practical about the culture and development of the country. I hope to join the upcoming conference in Beijing, China.

生物資源科学専攻 博士前期1年

小松 拓樹

私にとって海外で研究発表をすることは大きなハードルであった。というのも英語で流暢に話すのも苦手であるし、あがり症である私は分かりやすい研究発表もできる自信がなかったためである。

しかしこのJCKフォーラムへの参加は、私の高かったハードルを低くしてくれた。このフォーラムでは、自分の発表スライドの構成を専門外の先生に丁寧に添削してもらえたので、発表に対して自信が持てたのと同時に万人に分かりやすい発表を意識することができた。

最も大きな収穫であったのは、研究意識の高い先輩・同級生と知り合うことができたことである。それにより更に研究を頑張ろうという気持ちになった。

以上のことより参加してよかったと思えるフォーラムであったと言える。

生命産業科学専攻 博士後期 1年

ZHU QI

During September 20th-23th, 9th Korea-China-Japan Graduate Student Forum was held at Chungnam National University, Taejeon, Korea. This is my second time to join the JCK Forum.

In this three-day forum, 121 people attended. During these days, I shared the room with seven other guys, and they are from China, Japan, Korea and Iran. We introduced each other after arrive the hotel of forum and participated in a short tour led by the Korean student. These activities helped us to get to know others, cultures of different countries and exercise my communication skills in English and Japanese.

In the following days, before my turn, I sat in on other students' presentation and realized the present developing status in the other country. I also learned a number of knowledge form different field which can improve my study.

For my presentation, although I did not get the prize, I still received valuable suggestion in quantity, form both practice and real presentation. Also, I used my spare time to modify my paper, and published it after come back to Japan. I can say that I received things that much more precious than a presentation reward.

For the Forum, firstly, I have to thank the organizer and student leaders. In the last forum, I was one of the organizers, and I know how hard this work is. I still remember when I was first told to be an organizer of the forum; I panicked because I have never hosted any activity before. I have to pick the professors and students up; most of them come from Korea. I believe this is same to the organizers of this forum. But, they did a great job, and without their great performance, we cannot do the presentation so smooth. Second, I feel grateful that a lot of professors gave me a lot of comments to improve my PPT and presentation skills. Finally, I would like to appreciate my supervisor, Professor Yang. I will never present my study in an international conference and publish the paper.

As a part of this forum, I have learned a lot. I will keep working, try my best to present on more conference, and get prize.

生物資源科学専攻 博士前期2年

Nan Zhang

This is a very meaningful days for me to go to Korea to take part in the 9th Korea-China-Japan Graduate Student Forum which was held at Chungnam National University, Taejeon, Korea. This is my second time to take part the JCK Forum. I am very appreciate for giving me this chance to participate in this event with our professors and excellent student fellows. It would be a valuable experience of my student life and really gained a lot. Here shows some of my feelings after the conference:

Firstly, I learnt a lot during the three-day forum. 119 students during the conference on biology, environment and agriculture aspects. It is a very precious chance for us to learn what kind of research is going on in the world. All the students are presents for the most excellent young researchers in the three countries. And we got enough time and opportunity to communicate and change idea on the research with each other, not only with the students and professors in our own school, but from other countries.

Secondly, thanks to the strictly practice from our professors and the student staff, make us more confident on the presentation. In my opinion, for a good presentation, the content is absolutely very important, but the skill of making a presentation is the same importance. Before the conference, the student staff organized the practice. During that time, our dear professors gave us a lot of precious comment and helped us to refine our slides. I really appreciate for giving me such good opportunity to learn. Owe to the great help, I got a prize during the conference.

Thirdly, during the forum, I made some friends. This time, I met some students from the university of China and Korea, who I met them the last time. It is a wonderful experience that even though we did not contacted with each other, but we could still remembered each other and communicated pleasantly. And also got the new friendship with the fellow students in our team. A few days later, when I took part in another conference in Toyama, I met Mr. Asano, our fellow student, in a train and greeted to each other.

At last, I would express my gratitude to my supervisor, Pro. Yang, with her help, I could get an opportunity to join such an impressive conference and got a prize. It is like a gift for certificating my effort during the two year of master course. At the end of the report, I have to express my gratitude again for giving me this opportunity, I will always benefit from this experience and bear it in mind.

Thank you for our student leaders and all the organizers and our professors!

生物資源科学専攻 博士前期 2年

Zhao Chenyu

The 9th JCK Graduate Student Forum already past 4 months, but still give me a deeply impression. It wasn't my first time to participate an international conference, but it is the one that I learnt most. I summarized into the following points.

Firstly, Thanks our university gives me this opportunity to participate the conference. At the beginning, I was not confidence with myself, therefore, I practice again and again, and sensei give me a lot of advises. When I presented my research, I tried my best, and got my first international prize, that is "Excellent of the 9th JCK Graduate Student Forum". After that I realized if I want to improve myself, I must overcome my fear, I may stutter and embarrassed but this is very normal, only thing I need to do is keep to do it.

Secondly, I also learnt a lot from other countries students. From different countries and different fields. The aim of JCK forum is helping international students to learn from each other, not only the knowledge, but also the culture, in order to improve international understanding. In the future, I will keep on learning from each other. Through discussion, it has improved my communicative skills and strengthened my cooperative ability with others.

I know in the future, I still have a long way to go, but I have confidence in myself, I choose my major because I love it. Choose my love and love my choice. I believe I will get an ideal job in the future and live a wonderful life. Last but not least, Dear sensei, I want to say thank you to all of you, thank you for your hard-working and patient guide, which inspired me to do continuous efforts in the path of life and never give up.



環境バイオマス共生学専攻 博士前期2年

稲葉 遊

参加して一番良かったことは、自分の研究室、研究分野以外の人と知り合えたことである。今回、生命環境系の中から、幅広い分野（生物学、環境科学、地学、農業経済学等）の学生、教員が集まった。大学院において、普通に研究生活を送っていると、自分の研究室や分野以外の人と知り合う機会はほとんど皆無である。そのため、自分の研究、プレゼンに対し、気づかないことが多い。今回は本番の前に何回かプレゼン練習会があり、他の研究室の教員、学生から、プレゼン、研究に対しアドバイスをいただき、韓国でも、他の大学の学生、教員から様々な質問、アドバイスをいただいた。そこでの議論やアドバイスが現在の研究に繋がっている。

ただ、自分の研究分野とは違うセクションに振り分けられたため、聴衆に合わせたプレゼンの準備が十分にできなかった。こちらは運営側の問題であるため、原因はわからないが、改善点があれば、ぜひ改善してほしい。

生物資源科学専攻 博士課程前期2年

丸山 優樹

本フォーラムは筑波大学の学生だけではなく、中国・韓国の同年代の学生とも活発な議論が出来ると同時に、自身の英語力・プレゼン力を向上させる大変貴重な場であると考え参加させていただきました。実際にフォーラム参加直前まで生命環境系の先生方が個々の参加学生のプレゼンテーションを見た上で発表原稿及びスライドを細かく修正していただき、英語での研究発表の基本的かつ重要な部分を再認識することができました。さらに、フォーラム自体が学生主体である長所として先生方が少なく逆に質問しやすい環境となっていたため、発表者に対し積極的に質問・意見をすることができました。また開催地の韓国を少ない時間で観光することもでき、文化体験をする場としても大変充実したものでありました。

しかし、本フォーラムは様々な分野の学生が研究発表を行っているため、同じ分野の学生が少ない場合も多く、質問のないままに発表が終了している場面も見受けられました。発表で最も重視されるべき質疑応答がより活発になるセッション分けを行うなど、対応していただき来年度は学生同士の議論が絶えない場となることを期待しております。

最後に本フォーラム参加経験を生かし、今後とも研究に励ませていただきます。

生物科学専攻 博士前期1年

相原 拓馬

日中韓フォーラムに参加し、良かったことは他の専攻で勉強している学生とも交友関係を広げることができたことと、自分の専門以外の発表を聞いて周りがどんな研究を行っているのかを知ることができたことである。また、初めて日本以外のアジアの国に訪れ、韓国の料理や雰囲気を味わえたことは貴重な経験になった。

発表会に関しては痛烈になってしまいが、これまで参加した学会の中で最も準備ができていないと感じてしまった。この理由として、(1) あるセッションには同じ大学出身者ばかりが固まっていること、(2) 学生の専門分野とセッションがマッチしていないこと、そして(3) 発表がパンフレットの時間通りに行われなかったことである。まず(1)について。それぞれのセッションを見ると出身大学が異なる人がうまく混ざっているところもあれば、極端に同じ出身大学で構成されているセッションがあった。私の場合、セッションが12人で構成されていたが、10人が北京大学出身者で2人が筑波大学出身だった。聴衆もほとんどが中国の学生で日本人や韓国人学生がほとんどいなかった。次に(2)について。私の専門分野は神経科学なので生物学セッションに分類されると思っていた。しかし、実際には環境セッションに分類されてしまい、周りが水質汚染や森林などの自然分野についての発表を行っている中、神経科学の発表を行ってもほとんどが理解していないような雰囲気を感じた。これは私だけでなく、化学を専門とする友人も全く別のセッションに分類されてしまい、不満に思っていた。最後に(3)について。セッションによっては極端に発表時間が繰り上げられているところがあった。例えば、私が所属したセッションでは終了予定の40分前にすべての発表が終わっていた。他のセッションでも同様のことが起こり、聞きたかった発表の10分前に行ったらすでに発表が終わっていたことがあった。これらのことから、学生の分類と時間配分には改善できると思うところが多くあるのではと思った。

発表会自体には改善点がたくさんあるように思ったが、筑波大学の事務の関係者の手厚いサポートには大変感謝している。新しい友人もできたので、非常に良い経験だった。



地球科学専攻 博士前期1年

町田 南海子

私にとって日中韓フォーラムは初めての学会発表でした。国際舞台で英語を用いた研究発表ということもあり、フォーラムに参加したことはとても貴重な経験となりました。今回は全く研究分野の異なる方々を聴衆とした研究発表であったため、スライドのレイアウトや発表原稿の言葉づかい等、準備段階から細心の注意を払うことの重要性を学ぶことが出来ました。そして、その努力を1st Prizeという形で皆様に認めていただき大変うれしく思います。この結果に甘えることなく、今回の経験を糧により一層調査・研究活動に励んでいこうと思います。また、中国・韓国の志の高い大学院生と交流し互いの研究や将来の進路について語り合ったことは、私自身の将来を見つめ直す良い刺激となりました。

今回、大部分の日本人学生の発表セッションが本人の意思を問わない状態で割り振られてしまったことは、大変残念に思います。各国スタッフのより密な連携や連絡体制づくり等、今後の改善を希望します。

生物資源科学専攻 博士前期1年

Abdullah Yousufi

Participation in JCK-Forum was a unique experience of my educational life, where I met many students from diverse fields of study. It helped me a lot learn about, both positive and negative presentations methods. Which I believe, will help me in my future career.

Besides sharing educational and scientific findings during JCK-Forum with others, it was a good platform to know new people and make new friends as well. I feel improvements in my presentation skills after attending JCK-Forum, as well it helped me gain improved confidence.

Finally I would like to thank all organizers of JCK-Forum for their efforts and support before, during and after the conference. I would be glad if I find opportunity to participate in such programs in future as well.



生物学類 4 年

石崎 光理

今回のフォーラムは、私にとって初めての口頭発表&英語でのプレゼンの機会となりました。そのため、プレゼンの準備の仕方等、わからないことが多く、発表が近づくにつれ不安と緊張が大きくなりましたが、事前に行われた発表練習や先生方のサポートのおかげで、無事に発表まで行うことができました。あまり自分に自信が持てないタイプなのですが、このフォーラムを経験し、わずかながら自信を持てるようになりました。一方で、他の人達の発表を見て、自分のプレゼンの下手さや英語力の無さを痛感し、非常に悔しい思いをしたフォーラムでもありました。発表以外の時間では、先輩方に様々な場所へ連れ出していただきました。おかげさまで初めての海外で右も左も分からなかったのですが、非常に楽しい韓国遠征にすることができました。

フォーラムの改善点としては、セッション分けと順位決定の方法を挙げたいと思います。また、私自身の反省として、学生リーダーとして求められた働きができなかったと感じました。

今回のフォーラムで感じた悔しさ等を、今後の成長の糧にしていけるよう頑張りたいと思います。

生物資源学類 4 年

松本 颯汰

本フォーラムにおいては、学生リーダーとして日本側の運営を行いつつ、英語による口頭発表も行いました。学群 4 年生であるにも関わらず、上記の機会を与えられたことを嬉しく思います。学生リーダーの仕事では、日本側の発表練習会を企画いたしました。後手に回った状態での運営でしたが、お力添えいただいた先生方には感謝申し上げます。発表については、発表の準備自体は 2 ヶ月以上前から行い、練習も十二分に行ったものの、いかんせん英語の口頭発表は初めてであったため、本番は緊張のあまり声が力んでしまいました。しかし今回ひとしきり緊張したおかげで、本フォーラムの翌月にあった学群の中間発表会は緊張することなく終えることができました。本フォーラムは学群生にとっても大きなメリットを持っているため、来年は是非とも学群生からの積極的な応募を期待しております。

地球学類 4年

竹原 繭子

大学院生対象の国際フォーラムに学群生という立場での参加だったため、学外の研究発表会を経験したことのない私は、参加してみるまで未知数でした。学生リーダーとして事前の打ち合わせや練習会の企画・実行をしていたため参加までの道のりは長く感じました。練習会で他の学生の発表を聴くうちに自分の発表内容への自信が減ってしまい、本番では大変緊張しました。しかし同じ学群生でも堂々と発表して、結果に満足いかず本気で悔しんでいる姿を見て、自分のこれまでの勉学・研究への態度を考え直し、来年こそは結果を残したいと強く思いました。また、フォーラム期間中は中国の学生と盛んに英語で交流することができ、発表内容や専門分野についてもより深い話が聞けました。私は事前練習会の企画・実施に関わっていたので、特にフォーラムの改善点としては、練習会の実施日を決定するのに予想以上に時間を要してしまったことが挙げられます。来年からは、今回の反省点をフルに活かして学生全員が満足に練習できるように改善していきます。

地球学類 4年

高野 友希

参加して良かった、その一言に尽きる。初めての学会発表を英語で行ったことも、二日間たくさんの友人ができたことも全てかけがえのない思い出である。特に三つのことが印象的であった。まず一つ目、今回参加したことで周りの高いレベルの研究を実感し、より日々の勉強への意欲が出た。国籍を超えて研究について議論している姿を見て、早くそのレベルになりたいと強く思った。二つ目に、他大学の学生とのベッド争奪戦に敗れ3日間フローリングの上に薄い布団で寝て腰痛になったことだ。大部屋のため自然と交流できたのは良かったが、寝具が充実していることを望みたい。最後に、筑波大学の素晴らしさを何よりも実感できた。国際色豊かなメンバーだったが学生リーダーの統率の下チームワークは抜群で、さらに先輩たちの輝かしい成績は同じチームの一員であることが光栄だった。また先生方や職員の方のサポートには感謝の気持ちでいっぱいだ。特に先生方の帰路のバスの中でのパッション溢れるスピーチは心に迫るものがあった。これほど学生に期待し、鼓舞してくれていることが嬉しかった。今回の経験を胸に今後も精進していきたい。

生物学類 4年

矢野 更紗

英語で口頭発表をする初めての機会だったので、参加することが決まった直後は緊張と不安でいっぱいでした。しかし、事前に関かれた研修会で、ネイティブの先生や他分野の先生方に発表スライドのデザインや表現の仕方、研究内容を簡潔に伝えるための発表構成を指導して頂けたことで、英語で発表することに対する抵抗が少なくなり、徐々に自信をつけることが出来ました。そして、日中韓フォーラムでは、多国籍の学生と交流でき、韓国の文化を知り、楽しい時間を過ごすことが出来ました。帰国後は、留学生とも積極的にコミュニケーションをとることができるようになりました。日中韓フォーラム参加により、自身の英語力不足を痛感し、刺激を受けることができました。プレゼン、英語、そしてコミュニケーションのスキルを向上させる良い機会になりました。



閉会式での集合写真

4) サポートチームからの報告 / Report by Support Team

生命環境エリア支援室 中国連携サポートチーム

築 美浦子、水代 祐子、永元 美月

藤田 豊、佐藤 昌敦

私たち中国連携サポートチームは、生命環境系における中国連携事業を支援しており、その一環として、毎年開催される日中韓大学院生フォーラムに携わっています。

第9回目となる今回、本学から27名の学生（うち留学生13名）が参加し、その準備から実施までを私たちサポートチームおよび二歩URA、渋谷国際連携コーディネーター、エリアcommons 山田主任が支援しました。

1 目的

本フォーラムは、学生が主体となって研究発表や大学間交流等を行う国際イベントです。今回、私たちは、下記2点を目的にサポート活動を進めました。

- ・事務的な調整や処理を担い、参加学生に発表や交流の準備・実行に集中してもらう
- ・学生委員が参加学生に対しリーダーシップを発揮できるよう支援する

2 活動と所感

今回、チームメンバーで下記の役割を設定してサポートを行いました。

2.1 グローバル・commons連携プログラムへの申請・出張手続き（築 美浦子）

学生の皆さん及び教職員の出張手続きを担当し、学生委員の方との連絡や、書類作成等を行いました。慣れない作業でしたが、輸出管理についてはエリアcommons 山田主任に担当頂き、遺漏なく進めることができました。また、より多くの学生が参加できるよう、筑波大学グローバル・commons連携プログラムへの経費助成申請準備を行いました。本フォーラムの意義・魅力が伝わるよう考えていく中で、自分自身のフォーラムへの理解も深まったように思います。幸い助成を頂くことができ、経費面での心配なくサポートを終えることができました。関係の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

2.2 会計処理・予算管理・バス、航空券の手配（藤田 豊）

予算の管理、支払処理、借り上げバスの手配を主に担当しました。今回、限られた予算内に収めるため、リーダーの佐藤さんと意見交換をしながら、航空券の手配、バスの借り上げを行いました。

予算については、それぞれの目的に適切な経費を使用するために適切な予算を検討し、支出を行いました。

航空券の手配や、バスの手配は初めてのことであったので、前任の方やサポートチームのメンバーと相談しながら、進めました。

2.3 大学院共通科目の単位認定・記念品の手配（水代 祐子）

大学院共通科目への単位認定を希望する参加者について、フォーラムの事前練習会への参加状況を確認してリストを作成するとともに、大学院共通科目の担当教員および開講事務局に連絡を取り、単位認定の許可をいただきながら事務的な手順を確認しました。今後は TWINS 上での手続きを進めていく予定です。

また、記念品については、実行委員の先生方、渋谷国際連携コーディネーター、山田主任にご意見をいただきながら、学生委員とともにホスト校である忠南大学校（韓国）の教員委員・学生委員への記念品を選出し、発注しました。今回は中国地質大学等（中国）の教員委員への記念品も併せて準備し、現地での大学間交流に役立てていただきました。細かい確認や調整事項について、その都度、サポートチームや先生方、学生委員と情報を共有し、連携して進めることで円滑に業務を遂行することができました。

2.4 連絡調整・スケジュール管理・フォーラム随行（佐藤 昌敦）

学生委員および教職員間の連絡調整を担当するとともに、全体の進捗管理を行いました。慣れない業務に戸惑うことが多くありましたが、チームメンバーや渋谷国際連携コーディネーター、エリアコモンズ 山田主任などからご協力・ご助言をいただき、職務を全うすることができました。

また、二歩 URA とともに学生・教員に随行してフォーラムに参加し、プレゼンテーション等の撮影、教授陣会議への出席などを行いました。筑波大学生の言語や国籍の壁を越えて参加者と交流する姿や、研究発表に対する真摯な姿勢からは大学職員として大きな刺激を受け、貴重な経験を積ませていただいたと感じております。

3 おわりに

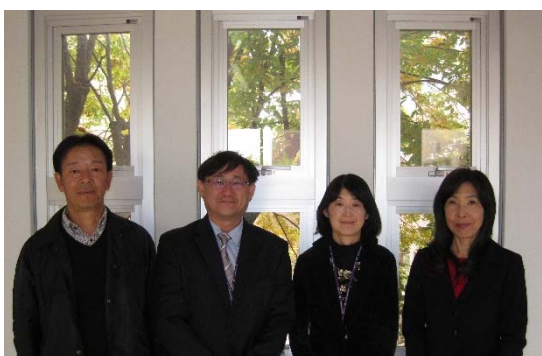
私たちは主に事務的な調整や処理を通じて支援し、それが学生たちの活躍に直結することを実感できました。これは通常の業務ではなかなか得られない「やりがい」に繋がる貴重な機会であったと感じております。また、教員や学生と密に連絡を取りつつプロジェクトの準備から実施まで一貫して携わったことは、日々の業務を異なる視点から振り返る良いきっかけとなりました。

プロジェクトの遂行にあたっては、生命環境エリア支援室の諸先輩方から協力・助言を

いただきました。また、教員や学生委員の皆様にも、様々な点でご尽力いただきましたこと、チーム一同心から御礼申し上げます。

来年度のフォーラムは中国で開催されます。今後もフォーラムが存続し、日中韓の学生・教員が更に交流を深められるよう、今回の経験を活かすとともに、今後も業務を通じて研鑽を積んで参ります。

以上



WEB マネジメント 実行委員会 副代表 エリアコモンズ 国際連携 コーディネーター



2016年度中国連携サポートチーム



康先生および学生リーダーとの打合せ

4. フォーラム日程表 / Schedule of the 9th JCK Forum

月日(曜日)	時間	用務等
9月20日(火)	8:40 8:50 9:00 10:30 12:30 15:00~ 18:00~	筑波大学本部棟前ロータリー 集合 筑波大学本部棟前ロータリー 発 TX つくば駅臨時バス乗り場 発 成田空港 着 (第1ターミナル) 成田空港 発 (OZ101 <アジアナ航空>) 仁川空港 着 バスで移動 Interciti Hotel 到着・Check In
9月21日(水)	10:20 11:00 12:00 13:30 18:00	(Interciti Hotel Daejeon で開催) 開会式 Keynote Speech 写真撮影 口頭発表 昼食 口頭発表 夕食
9月22日(木)	10:00 11:00 12:00 13:30 18:00	追加受付 口頭発表 昼食 口頭発表 夕食
9月23日(金)	9:30 13:00 15:10 17:30 18:10 19:30 19:40 19:40	Check Out、ホテルロビー集合 忠南大学校に移動後、記念撮影 仁川空港 着 仁川空港 発 (OZ106 <アジアナ航空>) 成田空港 着 成田空港 発 (第1ターミナル) TX つくば駅臨時バス乗り場 着 筑波大学本部棟前ロータリー 着 解散

5. フォーラム参加校と参加者数

/ List of Participated Universities and the Number of Participants

国	大学	学生数
日本	筑波大学	27
	小計	27
中国	中国地質大学 (China University of Geosciences)	19
	北京大学 (Peking University)	10
	中国科学院地理科学与資源研究所 (Institute of Geographic Science and Natural Resources Research, CSA)	10
	清華大学 (Tsinghua University)	10
	瀋陽農業大学 (Shenyang Agriculture University)	10
	中国科学院 (University of Chinese Academy of Sciences)	5
	中国農業大学 (China Agriculture University)	3
	小計	67
韓国	忠南大学校 (Chungnam National University)	27
	小計	27
合計		121



開会式

6. 筑波大学受賞者一覧 / List of Prize Winners

賞	氏名	専攻
Agriculture Science I		
1st Prize	Nazia Muhsin	国際地緑技術開発科学専攻
Biological Science I		
1st Prize	Mishma Silvia Stanislaus	生命産業科学専攻
2nd Prize	Shin Seungjae	生物科学専攻
Biological Science II		
1st Prize	Zhao Chenyu	生物資源科学専攻
2nd Prize	Zhang Nan	生物資源科学専攻
Environmental Sciences III		
1st Prize	浅野 裕樹	地球科学専攻
Environmental Sciences IV		
1st Prize	町田 南海子	地球科学専攻
2nd Prize	XU Yinchao	国際地緑技術開発科学専攻



各国受賞者

7. 筑波大学参加者名簿

/ List of Participants from University of Tsukuba

氏名		所属	学年
生命環境科学研究科 22名			
Asma Ben Hmidene		生命産業科学専攻	D3
Mishma Silvia Stanislaus		生命産業科学専攻	D2
XU Yinchao		国際地緑技術開発科学専攻	D2
Alamgir Md Shah		国際地緑技術開発科学専攻	D1
Ayyoub Salaghi		国際地緑技術開発科学専攻	D1
Cobar Leslie Jamie Cajipe		持続環境学専攻	D1
MD Monjurul Islam		国際地緑技術開発科学専攻	D1
Nazia Muhsin		国際地緑技術開発科学専攻	D1
Zhu Qi		生命産業科学専攻	D1
稲葉 遊	Yu Inaba	環境バイオマス共生学専攻	M2
長塚 元規	Motoki Nagatsuka	地球科学専攻	M2
丸山 優樹	Yuki Maruyama	生物資源科学専攻	M2
Shin Seungjae		生物科学専攻	M2
Nan Zhang		生物資源科学専攻	M2
Zhao Chenyu		生物資源科学専攻	M2
Abdullah Yousufi		生物資源科学専攻	M1
浅野 裕樹	Yuki Asano	地球科学専攻	M1
相原 拓馬	Takuma Aihara	生物科学専攻	M1
市川 紗矢香	Sayaka Ichikawa	生物資源科学専攻	M1
岡島 智美	Tomomi Okajima	生物科学専攻	M1
小松 拓樹	Hiroki Komatsu	生物資源科学専攻	M1
町田 南海子	Namiko Machida	地球科学専攻	M1
生命環境学群 5名			
石崎 光理	Hikari Ishizaki	生物学類	B4
高野 友希	Yuki Takano	地球学類	B4
竹原 繭子	Mayuko Takehara	地球学類	B4
松本 颯汰	Sota Matsumoto	生物資源学類	B4
矢野 更紗	Sarasa Yano	生物学類	B4

大学院生 22名
学群生 5名

The 9th Japan-China-Korea Graduate Student Forum



Farewell Party

8. 実行委員名簿 / List of Organizing Committee Members

日本実行委員	氏名	所属・役職/学年
名誉顧問	白岩 善博	生物科学専攻・教授
代表	沼田 治	生物圏資源科学専攻・教授・生命環境科学研究科長
副代表	二歩 裕	生命環境系 URA
教員委員	DeMar Taylor	生物圏資源科学専攻・教授
	楊 英男	生命産業科学専攻・教授
	康 承源	生物圏資源科学専攻・准教授
	Tofael Ahamed	国際地縁技術開発科学専攻・准教授
	Thomas Parkner	地球環境科学専攻・助教
	Louis Irving	環境バイオマス共生学専攻・助教
	木下 奈都子	生物圏資源科学専攻・助教
大学院生委員	浅野 裕樹	地球科学専攻・M1
	市川 紗矢香	生物資源科学専攻・M1
	岡島 智美	生物科学専攻・M1
学類生委員	石崎 光理	生物学類・B4
	竹原 繭子	地球学類・B4
	松本 颯汰	生物資源学類・B4
事務	山田 尚子	グローバルコモンズ機構
	渋谷 眞樹	生命環境エリア支援室
	櫻井 進	生命環境エリア支援室
	築 美浦子	生命環境エリア支援室
	水代 祐子	生命環境エリア支援室
	藤田 豊	生命環境エリア支援室
	永元 美月	生命環境エリア支援室
	佐藤 昌敦	生命環境エリア支援室
中国実行委員		
教員委員	Chuanping Feng	中国地質大学 / China University of Geosciences
韓国実行委員		
教員委員	Chang Soo Kim	忠南大学校 / Chungnam National University

9. 謝辞 / Acknowledgement

この報告書からもわかるように、第9回日中韓大学院生フォーラムは多くの方の多大なご支援により成立しました。簡単ではありますがここに感謝の意を示します。

韓国までご同行してくださった沼田研究科長、URAの二歩様、康先生及び楊先生、エリア支援室の佐藤様、本フォーラムのサポートに尽力してくださったエリア支援室の皆様、心より感謝申し上げます。また、参加学生の練習会で講師として参加していただき、発表に関する多くのご助言を頂きました先生方にお礼申し上げます。そして、本フォーラムの開催国である韓国の実行委員のみなさまに、心より感謝申し上げます。

これまでの日中韓大学院生フォーラムの実績を礎に、今後の日中韓フォーラムがさらに発展することを心より願っています。

学生リーダー 市川紗矢香



参加者集合写真（忠南大学校農業生命科学大学前）

第 9 回日中韓大学院生フォーラム報告書
Report of the 9th Japan-China-Korea Graduate Student Forum
2017 年 2 月 発行

第 9 回日中韓大学院生フォーラム実行委員会